

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和3年3月26日（金）

2 確認箇所

瓦礫等一時保管エリアW2

3 確認項目

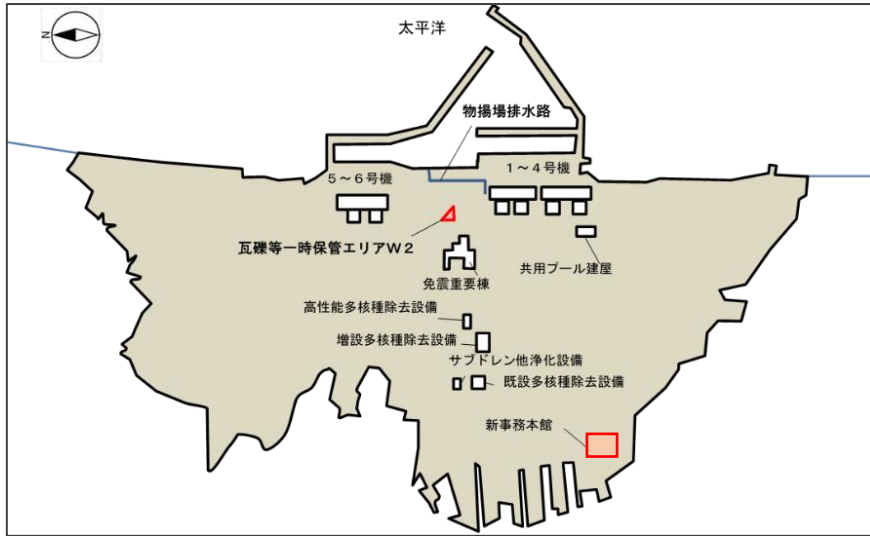
- (1) 物揚場排水路の簡易放射線検知器における「高警報」発生に伴う原因調査
- (2) 1号機原子炉格納容器内水位上昇に伴う注水量変更操作時の確認

4 確認結果の概要

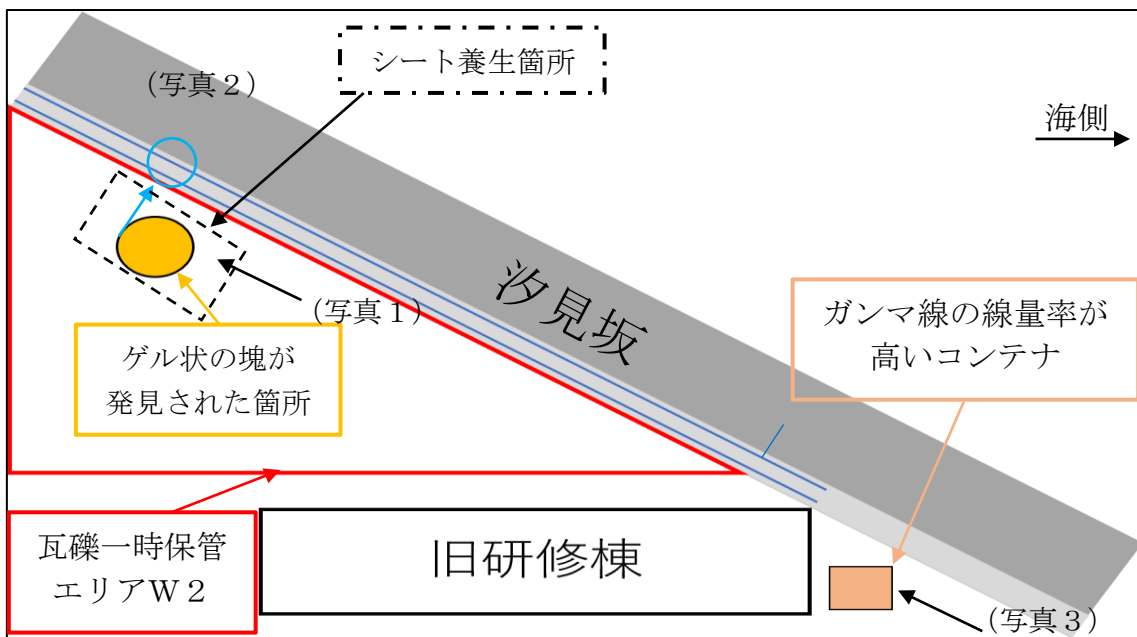
- (1) 物揚場排水路の簡易放射線検知器における「高警報」発生に伴う原因調査について

3月2日、物揚場排水路に設置されている簡易放射線検知器（以下「PSFモニタ」という。）において「高警報」が発生し、全ベータ放射能が高い（890Bq/L）排水が観測された事象の原因調査として、前回（[令和3年3月23日](#)）に続いて当該排水路の上流側に位置する瓦礫等一時保管エリアW2の調査を実施した。（図1）

- ・前回調査時に確認したベータ線の線量率が高い箇所がある当該エリアのアスファルト部分の一部はシート養生されており、上に土のうが置かれていた。（図2、写真1）
- ・当該エリアから物揚場排水路に雨水が排水されるための枝排水路の線量率の測定を実施したが、線量率の高い箇所はなかった。（写真2）
- ・当該エリア周辺の線量率の測定を実施したところ、旧研修棟近くのコンテナからガンマ線量率が高い箇所が確認された。（写真3）
- ・東京電力によると、当該エリアにおいてベータ線の線量率が高いゲル状の塊が確認されており、3月24日に塊を回収及び除染材の塗布を実施したとのことであり、今後当該地表面のアスファルトの剥ぎ取りを行うとともに、引き続き他の箇所も含めて原因調査を実施するとのことであった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(図2) 瓦礫一時保管エリアW2付近の状況



(写真1-1)
瓦礫一時保管エリアW2
(黄枠部分がβ線の線量率が高い箇所)
(北西側から撮影)
(令和3年3月23日撮影)



(写真1-2)
シート養生がされている
(令和3年3月26日撮影)



(写真2)
枝排水路の線量率を測定する様子



(写真3)
旧研修棟付近のコンテナ

(2) 1号機原子炉格納容器内水位上昇に伴う注水量変更操作時の確認について

令和3年2月18日、東京電力によるプラント関連パラメータ確認時に、1号機原子炉格納容器（以下、「PCV」という。）内水位計の指示値に低下が確認され、その後、その他のパラメータを確認・評価した結果、2月19日に1号機及び3号機においてPCV水位が低下傾向にあると判断された。PCV水位低下の要因としては、2月13日23時08分の地震により、これまで確認されている損傷部の状況が変化したため漏えい量が増加した影響が大きいと想定されており、PCV水位があらかじめ決められた水位を下回った時点で注水量変更操作が実施されることになっており、3月22日22時42分に1号機原子炉注水量が3.0 m³/hから4.0 m³/hに変更された。

その後、本日（3月26日）あらかじめ決められていた水位を上回り、注水量が元の注水量である3.0 m³/hに変更されたことから、注水量変更前後のプラントパラメータを確認した。

- ・3月26日10時43分に1号機原子炉注水量が4.0 m³/hから3.0 m³/hに変更されたが、注水量変更前後でプラント関連パラメータに変動は確認されなかった。
- ・東京電力によると、過去の注水停止試験において水位低下により格納容器圧力も低下したが、放射性物質の飛散などによる外部への影響がないことを確認しており、今後も水位低下が継続した場合、同様な事象が発生するものと思われるが、慎重に監視していくとのこと。

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。